

## 東日本大震災の宮城県災害派遣第 11 陣の支援活動について

平成23年4月15日～19日(実質支援活動日数は3日間)、徳島県災害派遣第11陣として、宮城県気仙沼市への支援に行っていましたので報告いたします。

### 1. 第11陣派遣部隊の体制

徳島県内自治体職員 27 名

(チームの内訳)

| チーム     | 編成  | 職 種               | 人数   | 活 動 場 所     |
|---------|-----|-------------------|------|-------------|
| 現地連絡員   |     | 事務職               | 1 名  | 宮城県災害対策本部   |
| 医療救護班   | 2 班 | 医師・看護師・薬剤師・事務職    | 10 名 | 石巻市立石浦中学校   |
| 心のケアチーム | 1 班 | 医師・看護師心理士・事務職     | 4 名  | 若林区保健福祉センター |
| 保健師チーム  | 2 班 | 医師・保健師・事務職        | 7 名  | 気仙沼市        |
| 災害支援ナース | 1 班 | 看護師               | 2 名  | 石巻市福祉事務所    |
| 介護支援チーム | 1 班 | 介護支援専門員・介護福祉士・事務職 | 3 名  | 南三陸町        |
| 派遣者数計   |     |                   | 27 名 |             |

### 2. 支援日程

平成23年4月15日(金)宮城県へ出発。それぞれの任務を負って各地域へ支援に入りました。

保健師チームは、1班の避難所(松岩公民館)での支援と、2班の被災者宅への訪問活動を行いました。ここでは、私が参加した2班の活動を報告します。

- ①4月15日(金) 徳島 午前10時出発、一関に午後7時到着。第10陣からの引き継ぎ。
- ②4月16日(土) 午前8時～午後5時まで、マッピングと訪問活動。
- ③4月17日(日) 午前8時～午後5時まで、台帳・記録作成と訪問活動。
- ④4月18日(月) 午前8時～午後5時まで、訪問活動とシェアさんへ引き継ぎ。
- ⑤4月19日(火) 一関 午前6時30分出発 徳島県庁へ午後5時到着。

### 3. 活動内容

平成23年4月16日(土)[支援1日目]

午前8時 健康管理センター「すこやか」へ登庁。

小ミーティング:兵庫県チーム、宮城大学チーム、NGO 法人シェアのスタッフとそれぞれの役割確認。訪問による



悉皆調査はすでに終了しておりましたので、午前中は津波の被害を免れた地区の要介護者がいる自宅をマッピングしたり自治会長や民生委員の所在を確認したり、訪問に必要な物品を準備しました。

午後 1 時～4 時 徳島県チームが担当する自治会長さん宅へ訪問し、津波の被害を免れた要介護者がいる自宅を訪問、本人及びご家族の健康状況把握。医療・健康相談サービスの窓口を紹介したり、支援物資の申請窓口を紹介したりしました。午後 4 時 30 分～5 時まで申し送りと記録をし、初日の任務を終了しました。



地震と津波の被害現場



山手は平穏な春景色が..



自治会長さんと同行訪問

#### 【支援初日での気づき】

松岩地区の自治会長さんに訪問しましたが、4月8日の時点で80数%の自治会員の安否確認ができていました。会長さん始め、地域の組織の機能がしっかりしていることに驚きました。

把握している人、世帯のうち要介護者以外に支援の必要な家庭、障害者のいる家庭などを会長さんが殆ど把握しており、「民生委員さんは、もっと大きな区分けが担当なので自分たちが頑張って地域の人を支えていかなくてはならないと思っている。」と話されたことばが印象的でした。

自治会長さんは、自分なりの把握方法として、世帯台帳のようなものを作成していました。

#### ◆訪問支援チームについて

- ①訪問相談記録はありますが、継続支援が必要なケースのカルテがなく、記録を日ごとにまとめて綴じているので、経過を記録できる様式が必要。
- ②今までの活動記録(日報)がないため、後任者が現状把握しにくい。
- ③それぞれ担当した地区をそれぞれの県がマップなどに消し込みをしているが、全体としてどこまで訪問できて、未把握がどれくらい残っているかがわからない状況でした。

#### 平成23年4月17日(日)[支援2日目]

午前の小ミーティングでシェアさんをはじめ宮城大学、兵庫県チームと相談し、世帯台帳と相談記録様式、地区の地図と民生委員・自治会長さんの名簿のマッピングづくりをしました。

〔作成した様式〕

- ①訪問済みの地区をマッピング

②世帯台帳と個別相談記録綴り(表紙の内側に民生委員と自治会長の名簿を貼付)

③日報綴り

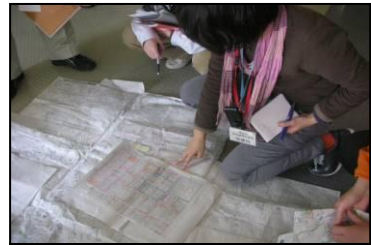
《 気仙沼市内全体の地図・地区別の地図・世帯台帳や各種相談記録様式づくりの様子 》



市内全体の地図を作成



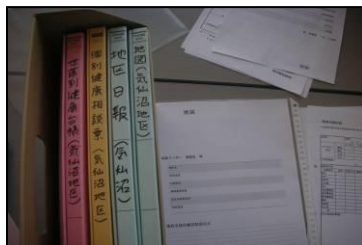
市内各地区の地図を作成



民生委員・自治会長に印



マッピングできあがり



世帯台帳・個別記録・日報



地区ごとに整理

午後から、昨日自治会長さんと約束した要支援者宅へ訪問。

会長さんに同行訪問していただくことで、短時間で信頼関係を築き適切な支援活動を行うことが出来ました。

### 【第2日目の気づき】

社会資源はできるだけたくさん把握しておき、訪問時にタイムリーに提供できるようにすることで短時間で信頼を得ることが出来、健康課題の解決につながりやすいと気づきました。

県外からの訪問支援について、いずれは支援チームも撤退するので、市の保健師や関係職員にもミーティングに参加してもらったり、支援状況について情報を共有したり、市の意見を聞いたりして支援活動する必要があると思います。

### 平成23年4月18日(月)[支援3日目 最終日]

大ミーティング(医療チームも含む全体会)・中ミーティング(宮城県保健師、気仙沼市保健師、気仙沼市看護師を含めての情報交換)・小ミーティング(シェア、兵庫県、宮城大学とのミーティング)

(ミーティングの内容)

今後は、地元の県の保健師が連携の要となって活動していくことになるだろう。一方、市は地区ごとに整理された要支援者の名簿や記録をもとに、他の機関や職種等との連携をしながら住民さんの健康増進のために活動していくことが大事だということを話し合いました。

ミーティング後、担当した地区の未把握家庭へ訪問し、3日間の活動を自治会長さんへ報告しました。

**【第3日目の気づき】**

3日間の保健活動を通して、民生委員さんや自治会長さんの活動をつぶさに拝見し、日頃から、担当地域の住民の健康把握や生活状況把握をしておくことが大震災や椿事が起こった時、適切な対応が迅速に行えるということが確認できました。

**【最近の徳島県の支援活動報告を読んで感じたこと】**

徳島県は7月20日までの支援活動を予定。保健師チームも巡回相談チームを廃止するため、1チーム3人で仮設住宅を訪問し、長期的な支援を行うこととなっていました。

未曾有の大災害であり長期的な支援が必要といわれていますが、地元で働ける保健師等専門職の確保をしていくことが切れ目のない保健活動を推進することになるのではないかと考えます。